

## 自動灌水とポリマルチでヤマノイモ秀品生産

ヤマノイモ栽培において、日射制御型拍動自動灌水装置（以下拍動灌水装置）とポリマルチとの組み合わせで、収量及び秀品率が増加する。また、灌水期間を5月から9月までとすることで、芋表面のひび割れが減少する。

### 内 容

丹波ヤマノイモは、兵庫県の特産野菜として重要な品目である。しかし天候、特に降水量により収量や品質の変動が大きく、栽培者の減少を招いている。収量及び品質向上のため、降水量の多少に対応できる拍動灌水装置とポリマルチ栽培の併用について検討した。

点滴チューブ（20cmピッチ）を畠中央部に敷設し、灌水を日射に応じて自動的に行う拍動灌水装置（写真1）で灌水を行うと、無灌水区に比べ

て、収量及び秀品率が向上する（図）。さらに、ポリマルチを組み合わせて栽培する（写真2）と、無マルチで栽培した場合に比べ、8月から9月までの灌水で全収量が1,218kg/10aから1,355kg/10aに、秀品収量が690kg/10aから712kg/10aに増加する。

灌水期間は8月から9月の2か月間だけ行うよりも、5月から9月までの5か月間行う方が、芋表面のひび割れ率が14%から6%に低下する。

ポリマルチ栽培は、除草作業が軽減されることから、作業の省力化にも貢献する。

### 普及上の注意事項

ポリマルチ栽培は、萌芽時に葉がマルチとの接触により焼けるので、支柱との併用が必要である。また、土壤水分が高すぎると、逆に肥大不良を生じる場合がある。このため土壤が十分湿っている場合は、灌水を止めるなど灌水量を加減する必要がある。

竹川 昌宏（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2423）



写真1 拍動灌水装置



写真2 ポリマルチ栽培のヤマノイモ

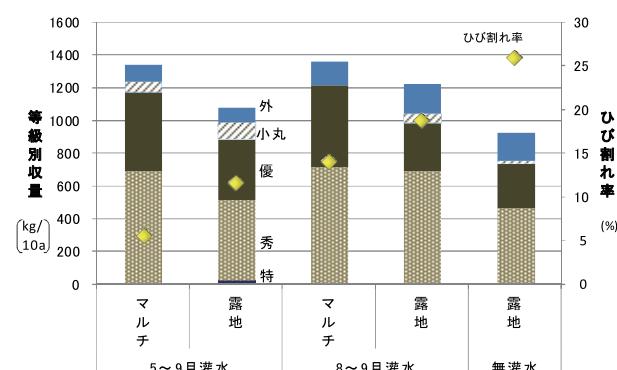


図 マルチと灌水期間がヤマノイモの収量・品質に及ぼす影響